

Design
your
passion



 トヨタ紡織株式会社

[証券コード:3116]

株主のみなさまへ
第89期 中間報告書

2013.4.1-2013.9.30

(平成25年4月1日-平成25年9月30日)

株主のみなさまへ…………… 01

財務ハイライト…………… 03

トピックス Quantum Leap (発想の飛躍) をもって、
新たな挑戦をしています…………… 05

グローバルな事業展開で、地域とともに
成長する企業に…………… 07





取締役社長
豊田周平

株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに「第89期 中間報告書」をお届けし、当社グループの経営方針を改めてご説明いたしますとともに、当期(2013年4月1日～2013年9月30日)の業績概況、事業概況をご報告いたします。

2020Visionの実現にむけて、 取り組みを加速

私たちを取り巻く市場環境は、新興国での競争の激化、自動車メーカーの生産地シフトへの対応などグローバルに変化をしております。そのような中、トヨタ紡織グループでは、10年先のありたい姿を描き、さらなる飛躍を目指した長期経営ビジョン「2020Vision」の実現にむけて、「地域」「顧客」「商品」「技術」の4軸で飛躍的な拡大を目指し課題に取り組んでおります。

その一つ、「地域」という軸では、特に新興国でのビジネス拡大をメインの一つとして取り組んでおり、ブラジルで昨年よりシートなどの生産を開始し、さらに増産対応を進めているほか、自動車市場の成長が今後も期待されるパキスタンに新会社を設立するなど、顧客の現地調達化ニーズにも対応してまいりました。また、サプライチェーンの充実による競争力の確保も重要課題の一つであり、トルコでの工場再編やラオスでの新会社設立など、コスト競争力の強いモノづくりにも着実に取り組んでまいりました。

また、既存顧客はもちろんのこと、欧州自動車メーカーをはじめとする新規顧客に対し積極的に受注活動を進めるとともに、中国 瀋陽などで新たに生産拠点を設立したほか、チェコの新会社で新たに生産を開始するなど、新規

顧客拡大に向けた事業基盤の整備、体制づくりを進めてまいりました。

「商品」という軸では、事業領域の拡大を進めるため、自動車以外の新たな分野への受注活動も積極的に進めており、新たに鉄道用車両シートを受注したほか、源流事業である繊維技術を活かして新たに住宅用装飾材「ヌノカベ」を開発し販売を開始しております。今後も、世界中のあらゆるお客様の期待を超える、魅力的で快適な移動空間を提案すべく、挑戦をし続けてまいります。

増産や為替の影響などにより 前年同期に比べ増収

当期の連結業績につきましては、売上高は、日本地域における前年のエコカー補助金終了や中国地域の減産影響はあったものの、北中南米地域の増産や為替影響などにより、前年同期比408億円(7.4%)増加の5,921億円となりました。利益につきましては、合理化などの増益要因はありましたが、減産減収の影響、製品価格変動の影響、研究開発費の増加、諸経費の増加などにより、営業利益は、前年同期比21億円(△11.7%)減少の161億円となりました。経常利益は、前年同期比39億円(20.7%)増加の228億円、当期純利益は、前年同期比20億円(21.3%)増加の114億円となりました。また、配当金につきましては、株主のみなさまへの安定的な配当の継続を基本に、1株あたり中間配当金は9円(前年同期比1円増)とさせていただきます。

通期業績予想に関しましては、売上高1兆2,000億円、営業利益300億円、経常利益360億円、当期純利益170億円と見込んでおり、主に外国為替相場の変動により、平成25年4月26日の公表値から変更しております。

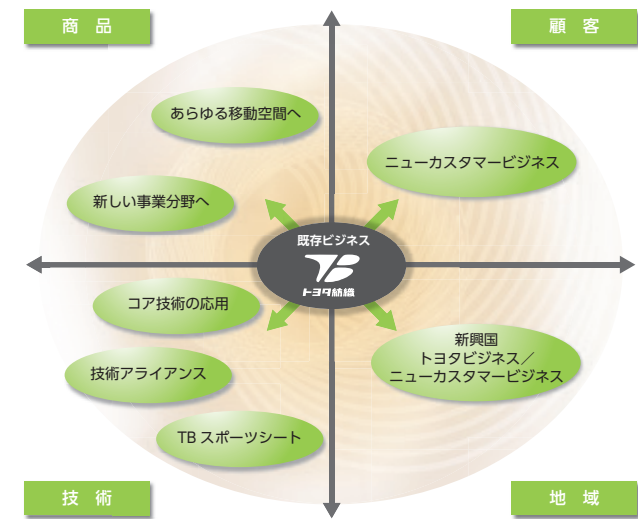
日本経済は、足元は一部で回復基調もみられますが、今後控える消費税増税など依然として不透明な部分も

ある上、中期的には少子化などによる市場の縮小や自動車生産の海外シフトの加速など、予断を許さない状況が続くと思われまます。

「Quantum Leap (発想の飛躍)」と 強い執念をもって課題に挑戦

このような状況の中でも、「世界中のお客様に最高のモビリティライフを提案し続ける会社」としてグローバルに勝ち残るため、あらゆる移動空間への挑戦や新規顧客の獲得、今後も成長が続く新興国でのさらなる拡大などを図っていきます。そして、「2020Vision」達成にむけて、これまでの考え方や価値観にとらわれることなく、「Quantum Leap (発想の飛躍)」と強い執念をもって、グループ全社員一丸となって課題に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。



売上高



日本での昨年のエコカー補助金終了、中国での減産による影響はあったものの、北中南米での販売台数の増加などにより増収となりました。

経常利益



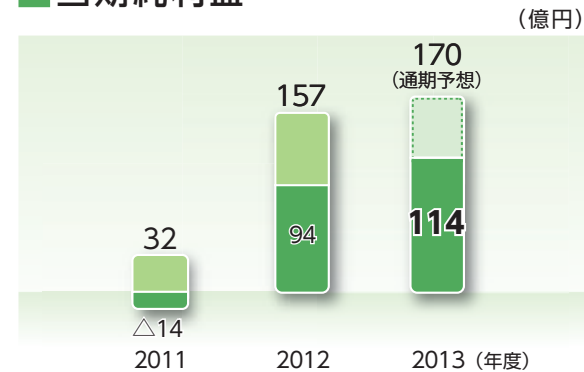
営業外収益の増加などにより、増益となりました。

営業利益



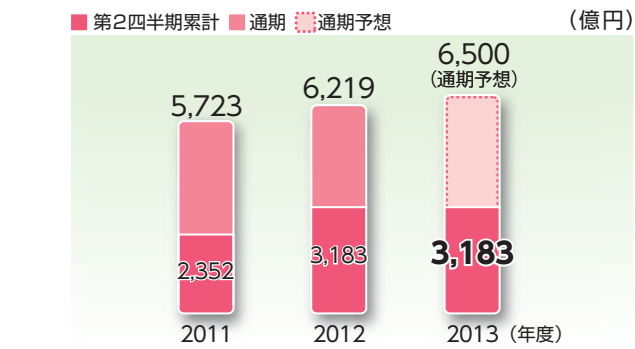
合理化などの増益要因はありましたが、減産減収の影響、製品価格変動の影響などにより、減益となりました。

当期純利益



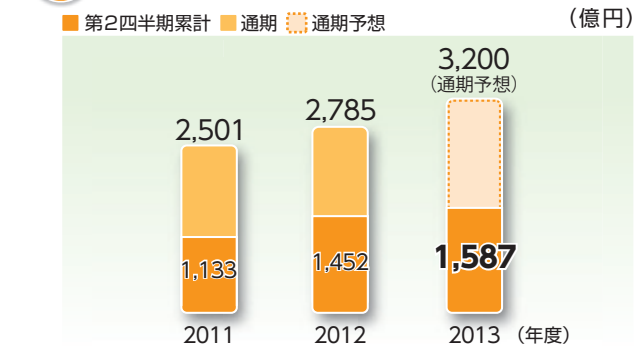
経常利益の増加などにより、増益となりました。

日本の売上高の推移



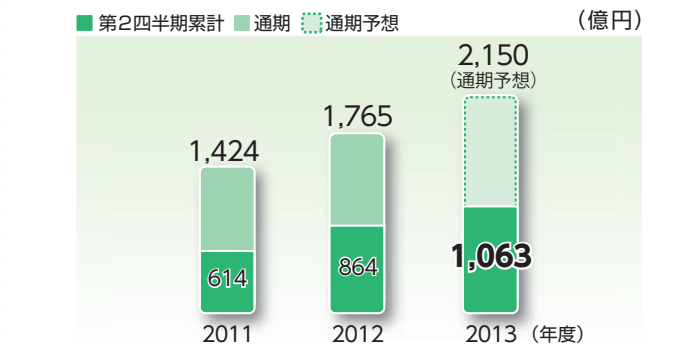
昨年のエコカー補助金終了後の減産影響などはありませんでしたが、前第2四半期累計と同等の3,183億円となりました。

アジア・オセアニアの売上高の推移



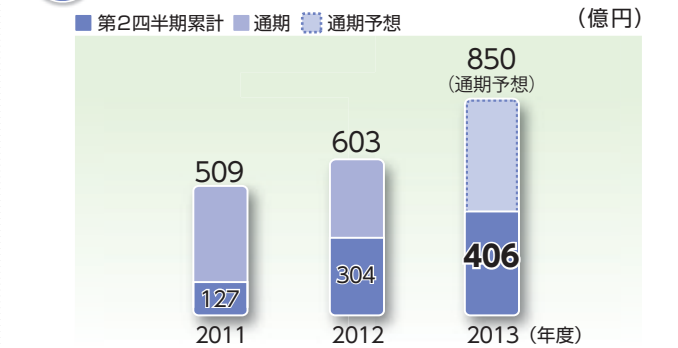
中国での減産影響はあったものの、トヨタ IMVの増産効果などにより、前第2四半期累計に比べ134億円(9.3%)増加の1,587億円となりました。

北中南米の売上高の推移



トヨタ EFC、RAV4の増産効果などにより、前第2四半期累計に比べ199億円(23.1%)増加の1,063億円となりました。

欧州・アフリカの売上高の推移



トヨタ カローラの増産効果などにより、前第2四半期累計に比べ101億円(33.3%)増加の406億円となりました。

Quantum Leap(発想の飛躍)をもって、新たな挑戦をしています

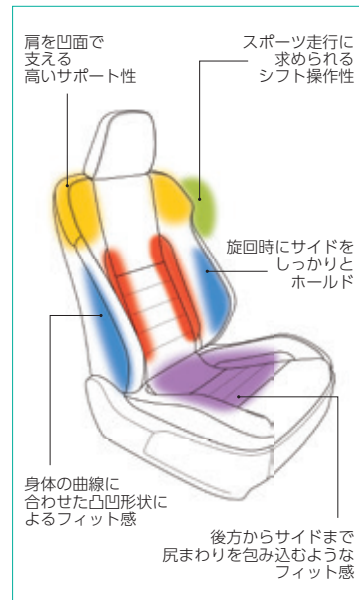
01 技術・開発力 トピックス 新開発スポーツシート「表皮一体発泡工法」

当社の新開発スポーツシートが、LEXUS新型ISのスポーティバージョン「F SPORT」に採用されました。このスポーツシートは、身体の曲線にあわせた理想的な凹断面形状で、身体全体を包み込む優れたフィット感と、旋回時にかかる重力加速度から肩や腰を保持する高いホールド性を確保し、さらに、スリムかつ洗練されたシートデザインで高級感を演出しています。今回シート開発に用いた「表皮一体発泡工法」は、金型にセットしたシートカバーの中にウレタンの原料を注入し、発泡させて成形するものです。成形したウレタンにシートカバーを被せる従来工法に比べ、より理

想的なシート形状で、高度な乗り心地とデザインを両立します。この工法は、ファブリック、本革、合成皮革など多彩な表皮材による成形も可能にします。



LEXUS IS "F SPORT"



新開発スポーツシートの特徴



LEXUS IS搭載スポーツシート

02 技術・開発力 トピックス フランクフルトモーターショーに初出展

9月にドイツ フランクフルトで開催された「第65回フランクフルト国際モーターショー」に初出展しました。当社は、主要顧客であるトヨタ自動車ビジネスに着実に取り組むとともに、2011年に設立した紡織オートモーティブヨーロッパを中心に、欧州系自動車メーカービジネス拡大にも積極的に取り組んでいます。今回の出展を通して、当社の技術力を世界中の自動車メーカーへアピールし、さらなる新規ビジネス獲得を目指します。また、あらゆる顧客ニーズに対応できる独自の技術力を一層向上させ、より魅力的で快適、安全な移動空間を世界中のお客様に提供していきます。



第65回フランクフルト国際モーターショー当社ブース

03 技術・開発力 トピックス 「ヌノカベ」を販売開始

トヨタホーム(株)と共同で開発した住宅用内壁装飾材「ヌノカベ」を販売開始しました。千葉県で開催された「CIETEC JAPAN2013」のトヨタホームブースにおいて「ヌノカベ」を紹介。スピーカーや照明などを組み入れた機能性の高い商品を紹介し、新しいライフスタイルの可能性を提案しています。



CIETEC JAPAN2013でPR

注目のクルマに当社の製品が搭載されています

発売年月	車名	主な製品
2013年8月	トヨタ カローラハイブリッド	シート、ドアトリム、エアフィルター、
2013年8月	トヨタ S A I	オイルフィルター、
2013年9月	トヨタ クラウンマジェスタ	キャビンエアフィルター など

グローバルな事業展開で、地域とともに成長する企業に

04 トピックス 事業展開 パキスタンで自動車部品の 合併生産に合意

5月にパキスタンの自動車部品メーカーであるタール※1、豊田通商(株)との3社で、自動車部品を生産する合併会社をパキスタンに設立することに合意しました。新会社「タール紡織パキスタン」は、トヨタ紡織グループにとってパキスタンにおける初めての生産拠点です。トヨタ紡織グループは、これまでタイをはじめとする各国で、パキスタンに供給するシートフレーム構成部品やエアクリナーを生産してきました。その工程の一部をタール社の工場を活用する新会社に移管し、2014年7月より生産を開始します。将来的にはシート組立をはじめとする事業拡大を目指します。

※1 現地財閥House of Habibのグループ会社で、カーエアコンやワイヤーハーネスなどの生産会社



■設立、生産開始、合併

設立	2013年4月 2013年7月 2013年7月 2013年8月	トヨタ紡織ラオス 瀋陽豊田紡織 河源豊田紡織 タール紡織パキスタン
生産開始	2013年7月 2013年7月 2013年9月	TBソーテックトルコ (カローラのシートカバー) 紡織オートモーティブチェコ 河源豊田紡織(カムリのシートカバー)
子会社化	2013年7月	TBカワシマ

05 トピックス 事業展開 紡織オートモーティブチェコで 生産開始

欧州における子会社の紡織オートモーティブヨーロッパが、チェコ共和国において設立した「紡織オートモーティブチェコ」で欧州自動車メーカー向け内装部品の生産を開始しました。トヨタ紡織グループは世界のあらゆる顧客ニーズに対応できる独自の技術力の向上、および最適生産・物流体制を構築させ事業拡大を目指します。



紡織オートモーティブチェコの社員

コラム

個人株主様工場見学会を開催

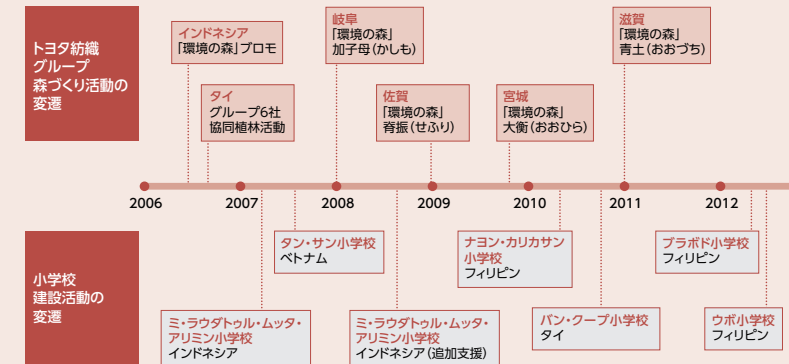
株主のみなさまに、生産ライン見学を通じてトヨタ紡織グループへの理解を深めていただくため、定期的に工場見学会を開催しています。今年6月には、当社高岡工場に約60名の株主のみなさまをお招きしました。



地域社会とともに

グローバル企業として 社会貢献活動を展開

トヨタ紡織グループはグローバルに事業を展開するうえで、よき企業市民として、それぞれの地域社会のみなさまとコミュニケーションを図りながら、環境活動、青少年育成・教育活動、福祉・地域に根ざした活動を重点に取り組んでいます。



中国の緑化に挑む森づくり

中国地域では2012年度より森づくり活動を開始しており、中国の砂漠化防止と改善に取り組んでいます。豊田紡織(中国)は、5月に中国緑化基金会と植林の協定を結び、森づくり活動を内モンゴルのアラシャン地区で行い、中国の事業体から参加したボランティアたちで常緑針葉樹のコノテガシワなど1,200本を植樹しました。



内モンゴルでの植林活動

企業スポーツ活動

トヨタ紡織グループの4つの強化クラブは、日本や世界での活躍を目指しています。

■ボート部

ウェイトトレーニングを重点課題とし、パワー負けないチームづくりをしています。チーム一丸となり全日本選手権イトでは、優勝を目指します。



■陸上部

新人5名が加入し、既存の選手との競い合いでチーム内の競争力を高めています。中部駅伝大会で連覇して勢いをつけ、ニューイヤーズ駅伝で3位入賞を目指します。



■女子バスケット部

昨年課題であったデフェンス面の強化を図ってきました。今年は昨年の8位からWリーグ6位入賞を目指します。



■ハンドボール部(トヨタ紡織九州)

他チームに比べ身体が小さくても脚力を生かしたスピード感のあるプレーを心がけています。チーム一丸となり、日本ハンドボールリーグで優勝を目指します。



決算概要

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (2013年9月30日)	前期末 (2013年3月31日)
●資産の部		
流動資産	370,780	339,282
固定資産	253,322	244,673
有形固定資産	213,436	204,916
無形固定資産	4,175	4,491
投資その他の資産	35,709	35,265
資産合計	624,102	583,955

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期累計期間 (2013年4月1日～ 2013年9月30日)	前第2四半期累計期間 (2012年4月1日～ 2012年9月30日)
売上高	592,179	551,335
売上総利益	54,596	50,870
販売費及び一般管理費	38,403	32,534
営業利益	16,193	18,335
営業外収益	8,889	4,379
営業外費用	2,233	3,789
経常利益	22,849	18,925
特別損失	507	-
税金等調整前四半期純利益	22,341	18,925
法人税等合計	6,722	6,207
少数株主利益	4,129	3,246
四半期純利益	11,489	9,470

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (2013年9月30日)	前期末 (2013年3月31日)
●負債の部		
流動負債	262,990	246,557
固定負債	121,839	116,656
負債合計	384,829	363,214
●純資産の部		
株主資本	211,749	202,096
その他の包括利益累計額	△ 9,443	△ 14,849
新株予約権	584	802
少数株主持分	36,382	32,690
純資産合計	239,273	220,740
負債純資産合計	624,102	583,955

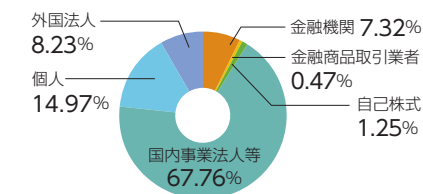
会社の概況 (2013年9月30日現在)

株式の総数

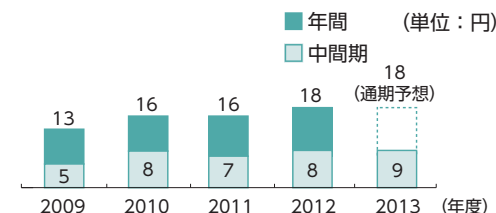
発行可能株式総数 500,000,000 株
発行済株式の総数 187,665,738 株

株主数 (20,102 名)

●所有者別株式分布状況



配当金の推移



当社は、安定的な配当の継続を基本に、連結業績および配当性向などを総合的に勘案し、株主のみなさまのご期待にお応えしていくことを配当の基本方針としています。

●第2四半期配当金について

2013年9月30日の最終の株主名簿に記載もしくは記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり期末配当金をお支払いします。

1. 第2四半期配当金：1株につき9円
2. 効力発生日ならびに支払い開始日：2013年11月26日

会社データ

設立 1950年5月
資本金 8,400百万円
従業員数 単独 8,354名 連結 36,878名
本社 愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地

役員 [取締役および監査役]

取締役社長	豊田 周平	取締役	山内 得次
取締役副社長	小山 秀市	取締役	奥平総一郎
取締役副社長	宮寺 和彦	取締役	宮木 正彦
取締役副社長	滝 隆道	常勤監査役	桂木 正樹
取締役	上田 広司	常勤監査役	伊藤 嘉徳
取締役	野田 憲一	監査役	豊田 章男
取締役	伊藤 文隆	監査役	吉田 均
取締役	堀 弘平	監査役	加藤 宣明
取締役	杉江 保彦		

主な製品



●内装品
シート、ドアトリム、天井、カーペットなどから構成される移動空間を統合的・効率的にコーディネートされたシステムとして捉え、総合的な美しさや快適性・安全性を追求しています。



●フィルター・パワートレイン機器部品
世界をリードするフィルトレーション技術を駆使し、吸気システム製品や、エレメント交換型オイルフィルターなどのエンジン潤滑系製品、車室内空調系フィルター製品などの開発・生産を行っています。



●繊維・外装品他
繊維事業ではシートファブリック、エアバッグ用布製品などの開発・生産を行っています。また、外装品事業では補給用バンパー、フェンダーライナーなどの生産を行っています。

株式事務のお取扱いについて

■ 事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

■ 定時株主総会

毎年6月

■ 配当金支払株主確定日

3月31日 なお、中間配当を実施するときは9月30日

■ 株主名簿管理人および特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■ 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

ご注意

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関するお手続きについて

■ 特別口座に記録された株式

お手続き等のご照会	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別口座から一般口座への振替請求 ● 単元未満株式の買取（買増）請求 ● 住所・氏名等のご変更 ● 特別口座の残高照会 ● 配当金の受領方法の指定※ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期限経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ
	特別口座管理機関	株主名簿管理人
お問合せ先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 [手続き書類のご請求方法] ● 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ● インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/	

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

■ 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き等のご照会	<ul style="list-style-type: none"> ● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 左記以外のお手続き、ご照会等
	株主名簿管理人	口座を開設されている証券会社等にお問合せください
お問合せ先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部	

上場株式の配当金に関する『源泉徴収税率』変更のご案内

- ◆平成26年1月1日以降に支払いを受ける、上場株式の配当金には、原則として20%（所得税15%、住民税5%）の源泉徴収税率が適用になります。
- ◆また、平成49年12月31日まで、復興特別所得税として所得税額×2.1%が追加課税されることになっております。

平成26年以降、上場株式の配当金には、復興特別所得税を含め、20.315%（※）の源泉徴収税率が適用になります。

（※）所得税15%、復興特別所得税0.315%、住民税5%

- 源泉徴収が行われる場合の税率です。ただし、内国法人の場合は住民税が徴収されません。
- 本ご案内は、上場株式の配当金に係る税金について、一般的な情報をご提供するために作成されたものであり、本ご案内の内容が当てはまらない場合もございます。詳細につきましては、最寄の税務署、税理士等にお問合せください。本ご案内は平成25年9月時点の情報をもとに作成しております。

	平成25年 12月31日まで	平成26年 1月1日から 平成49年 12月31日まで	平成50年 1月1日から
所得税 (含む復興特別所得税)	7.147%	15.315%	15%
住民税	3%	5%	5%
合計	10.147%	20.315%	20%

お問合せ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

